

会 議 録

会議名称	令和6年度 第1回座間市子ども・子育て会議		
日時	令和6年4月25日（木） 10時～11時30分		
場所	市役所5階 5－2、5－3会議室		
出席委員	飯田委員、大下委員、菊地委員、小多喜委員、高松委員、内藤委員、浜田委員、山本委員、麻生委員、畑中委員、湯川委員		
事務局	こども未来部長、こども家庭課、株式会社ぎょうせい		
会議の公開可否	■公開 □一部公開 □非公開	傍聴者数	3人
次第	1 開会 2 議題 座間市子ども計画策定に係るニーズ調査実施について 3 その他 4 閉会		
配布資料	資料1 座間市こども計画の位置付けとアンケート調査概要 資料2－1 座間市にお住まいの未就学児の保護者の方を対象とした調査 資料2－2 座間市にお住まいの小学校就学児童、保護者の方を対象とした調査 資料2－3 座間市にお住まいの15歳～29歳の方を対象とした調査 資料2－4 座間市に住んでいる小学5年生を対象とした調査 資料2－5 座間市にお住まいの小学5年生の保護者の方を対象とした調査		

●委嘱式

(1) 委嘱状の交付

選出団体内の役職異動により、新たに委員となった1名にこども未来部長より委嘱状を交付した。

※任期：令和6年7月31日まで

(2) 委員照会（自己紹介）

新委員による自己紹介

●子ども・子育て会議

1 開会

○事務局（こども家庭課）

子ども・子育て会議委員14名中11名が出席し、座間市子ども・子育て会議規則第5条第2項により会議が成立。

○事務局（こども未来部長）

委員へ挨拶。

2 議題

○事務局（こども家庭課）

資料を確認後、座間市子ども・子育て会議規則第5条第1項により大下会長が議事を進行。

・座間市子ども計画策定に係るニーズ調査実施について

○事務局（こども家庭課）

資料1に基づき説明。

○委員

未就学児世帯向け調査は、前回調査でどの程度回答があったのか。また、私自身もニーズ調査に取り組んだが、時間がかかるので途中で諦める方もいるのではないかと。どのようなフォローを考えているのか。

○事務局（こども家庭課）

前は紙による調査で回答率は50%強である。今回はウェブでの回答となり、選択肢による分岐が紙よりも分かりやすいので、この割合よりも増えるの見込んでいる。具体的な目標回答率はないが、より回答しやすい調査を目指している。

○委員

未就学児世帯向け調査の対象者1,800人とは、対象となる未就学児が座間市にどのくらいいる中での人数か。

○事務局（こども家庭課）

具体的な人数は持ち合わせていないが、一学年の人数が約800人であることから、対象となる未就学児は4,000人ぐらいを想定している。

○委員

対象者1,800人かつ前回の回答率50%を踏まえると約900人だが、4,000人のうち900人の妥当性は。

○事務局（株式会社ぎょうせい）

市の状況を把握するには、どの程度の配布数と回答数があれば有効かを判断する計算式があるので、この計算式に基づき、この調査数で未就学児世帯全体の傾向を把握できると考えている。

○委員

いきなり案内ハガキが来るのは戸惑う方もいるはず。LINEなどで周知があってから届く認識であっているか。

○事務局（こども家庭課）

ホームページやLINEを使って周知した中で、無作為抽出した対象者への案内を想定している。

○委員

小学5年生を対象とした調査は授業中に実施するのか。

○事務局（こども家庭課）

授業中の実施は、カリキュラムがあるので難しいと考えている。そこで、学校によっては、児童に貸与したタブレットの持ち帰りを許可しているとのことなので、家庭で出来る範囲での回答をお願いしたい。

○委員

本当に困っている方は、ここまで長い調査は回答しづらい。しかし、困っている方からこそ、回答していただきたいと考えるが、はがき以外のアプローチ方法は考えているのか。

○事務局（こども家庭課）

調査対象者は住民基本台帳に記載された方から無作為抽出する以上、こちらから回答しづらい方を予め特定するのは非常に困難である。

色々なケースがあるが、大事な調査であることをお伝えしながら、市に連絡をいただいて、対象者に寄り添った対応を考えている。

○事務局（株式会社ぎょうせい）

無作為抽出は、普段アプローチができない方に対して、調査を届けることができる可能性があるというメリットもある。しかし、本当に配慮が必要な家庭の状況を把握するのは、調査だけではかなり困難であるので、ニーズ調査を補足する意味で、関係団体や事業所、お子さんを支援されている方々に対しても別途調査を実施する予定である。

よって、本人あるいは保護者に対する調査、そして関係者への調査により、座間市の状況、課題を把握する予定である。

○委員

こども計画の主な対象を記載した図において、子供・若者の範囲が39歳までと読み取れる。若者に対する調査は15歳から29歳を対象としているが、計画自体は39歳までが対象か。

○事務局（株式会社ぎょうせい）

子ども・若者計画においては、39歳までのお仕事をされていない方に対する支援なども含まれる。一方で、子ども・若者計画の主な対象、ほとんどの施策は29歳までが対象であるので、今回のニーズ調査は29歳までを対象に実施する。

○委員

中学生が調査対象から漏れている理由は。

○事務局（こども家庭課）

神奈川県においても、直近に中学生と小学校高学年の生徒に調査を実施しており、中学生分は県の集計結果を活用する。よって、市では小学校高学年の生徒に向けて実施する予定である。

○委員

未就学児世帯向け調査の間33において、経済的にできないことを質問し、「習い事や学習塾に通わせる」といった選択肢がある。この選択肢は、習い事や学習塾に通わせるのは良いことで、通わせていないと良くない家庭という印象を受ける。また、「子供の行事などへ親が参加する」という選択肢は、一般的には親の就業が理由で行事に参加できないのであり、経済的な内容とは別の話ではないか。

○事務局（株式会社ぎょうせい）

前回調査との比較を想定して、同様の選択肢を設けているが、委員の御指摘のように、この選択肢は実態に合わない、他の選択肢を設けた方がいい、こういう聞き方をした方がいい、こういう注釈をつけた方がいい、という御意見を頂き、反映させていただく形にしたい。

御意見いただいた間33についても、果たしてこの経済状況を把握する設問、選択肢で望ましいのか市と協議を行い、必要に応じて修正したい。

○事務局（こども家庭課）

御指摘に配慮して再検討したい。

○委員

同じ間33について、「1年に1回くらい家族旅行に行く」という選択肢も、旅行先によって金額は異なる。経済的なことを質問しているにもかかわらず漠然としているが、より明確にした方がいいのか、敢えて曖昧にして大きな方向性を把握しようとしているのか、いずれか。

○事務局（こども家庭課）

しきい値として、具体的な金額を示すかという御指摘と受け止めているが、この設問についてはそもそも行ける、行けないにしきい値を設けている。イエスかノーで御回答いただく予定である。

○委員

この間33において、未就学児に「お小遣いを渡す」選択肢は、他の「新しい服を用意する」よりも、先ほどのしきい値の観点からもそこまで重要じゃないと思う。私自身も4歳の息子がいるが、息子にお小遣いを渡さないなので、この選択肢自体があまり意味をなしていない。

○事務局（こども家庭課）

間33は、保護者が経済的な理由でお小遣いをあげられないという選択肢であるが、御指摘のように、お小遣いを渡さないのが不適切と捉えられてしまう可能性がある。表現に配慮したい。

○委員

質問するのであれば、各選択肢がそれぞれ出来ますかといった質問でなくて、「家庭でやりたいことがあるけど、出来ないことがありますか」に対してイエスかノーで調査の方が適切ではないかと。皆さんやりたいことがバラバラであり、子どもとキャンプに行きたい人もいれば、遊園地に行きたい人もいれば、旅行に行きたい人もいる中で、これら一つ一つを経済的に出来ますかと質問しても、優先順位の話になるだけでないか。

○委員

お小遣いの質問は、未就学児世帯向けの調査から、就学児世帯向けにスライドしてはどうか。小学生が対象であれば、お小遣いをあげている家庭もあれば、あげてない家庭もある。

○事務局

就学児向けの調査についても、同様の質問を用意しているので、この説明を残すか、残さないかという受け止め方をしたい。前回調査との比較ができた方が、市は進捗管理しやすいが、そもそも進捗管理が不要というところで、このような誤解を招くような質問は無くすことも含めて、検討したい。

○委員

そもそも、このニーズ調査は全国レベルで同じような質問で実施しているという理解でよいか。

○事務局（株式会社ぎょうせい）

未就学児と就学児世帯向けの調査については、前回実施した調査をベースにしており、更にその前回の調査は、国のモデル調査票をベースに作成されている。

ただし、問32以降は、前回の調査時に座間市の現状を把握するための設問として追加されたものであるので、前回と比較するよりも良い質問があれば、設問の内容自体も適正なものに変更しても問題ない。

○委員

質問内容はやはり時代によって変わってくるので、前回も大事だが、今回も皆さんの意見で、質問を加えたり、内容を少々変更しても良い。

○事務局（こども家庭課）

問33を、問33の1と2に分けて、「やりたいけども、できないことがありますか」の次により詳しいことを書いていただくような二段構えでよいか。

○委員

あまり調査する必要性を感じなかったもので、質問自体無くしてもいいのではないかな。

○委員

「経済的にできないことがありますか」という質問であるので、経済的な状況を確認する質問にも見えるが、一方で年収に関する質問が他にあるので、問33は特に意味がないと感じる。

例えば、その未就学児世帯がお金をどういう風に使いたいのか、どういう希望をお持ちなのかというところをもし聞くのであれば、「子供にどんな体験をさせたいと考えていますか」のような質問がいい。得られたデータから、施策にどう生かすか検討の材料になる

○事務局（こども家庭課）

この問33については、選択肢に誤解を招く部分があり、経済的な設問という意味では他の設問と重複する部分もあるので、大幅な変更も含めたうえで検討したい。

○委員

座間市のオリジナルという視点で、私自身も今年に中学校に進学した娘がいるが、座間市に圧倒的に足りていないのが給食と考えている。小学校では美味しい給食を食べているのに、中学校の仕出し弁当は、生徒間であまりいい評判ではない様子である。私自身も試食会で美味しくいただき、娘も仕出し弁当が美味しいと言っているので、この風潮はよくないと感じている。

そこで、就学児世帯向け調査の問23「市の子供・子育て支援施策として、今後力を入れていくべきもの」について、私自身が調査対象者であれば、その他として「給食」に関する回答をしたいと考えている。

「食に関する指導や情報提供の充実」は選択肢にあるが、近隣の大和市は給食センターを整備しており、小学校の給食が延長されると思っている家庭もある中で、給食に対する思いが届くような調査にして欲しい。

市に要望しても、仕出し弁当で支援できているといった回答だったので、「給食が必要だと思いますか、思いませんか」のような質問で、割合が可視化できるような設問の追加を期待したい。

調査結果次第で、「パーセンテージが高いから、給食センターを検討」という形になればうれしいが、一つのきっかけになるような質問があるといい。

○事務局（こども家庭課）

割合が施策に直結するかは他部署の話であるのでお答えしづらいが、市独自の設問には余地があるので、検討させて頂きたい。

○委員

今のやり取りで、給食という具体例が示されたが、市が政策を考えるときに、具体的な内容を聞いた方がイメージしやすいのか、それとも調査のように抽象的な方がイメージしやすいのか、いずれか。

○事務局（こども家庭課）

細かに質問してしまうと、今20問、30問とあるものが、50問、100問となってしまう、回答率が徐々に下がってしまうジレンマがある。抽象的な質問にせざるをえないというのはご理解いただきたい。

○委員

給食のことをピンポイントに聞くのが難しいのであれば、先の選択肢「食に関する指導や情報提供の充実」は、子どもへの食の提供、給食を包含したような選択肢に変更してはどうか。

○事務局（こども家庭課）

給食を連想するという選択肢を用意するのも、落としどころの一つと考えているので、これも含めて事務局で預かりたい。

○委員

保護者の意見も大事だが、現場で沢山色んなことを見ている保育士、小学校や中学校教師の意見も欲しい。

○事務局（株式会社ぎょうせい）

先ほど説明した関係団体、事業所向けの調査の中に、支援している側の方への調査、例えば児童ホームの職員への調査を実施するか、今後検討したい。

○委員

小学5年生を対象とした調査問19の選択肢「私は、ほかの子供から、いじめられたり、からかわれたりする。」に対して、イエスと回答した児童がいても、そこはフォローできないか。

○事務局（こども家庭課）

誰が回答したかを事務局側では一切分らない。その分、回答者の実態・実情をお答えいただければと考えている。

○委員

15歳から29歳までの若者向け調査について、私自身も今年29歳になるが、結婚や子育てに関する質問は結構デリケートな問題と思っている。まだ15歳だとイメージが沸かず、29歳は結婚する・ないで悩まれている方もおり、結構な負担でないか。その他、同性婚ができない仕組みの中でこのような質問は、配慮が少々欠けている印象を抱く。

○事務局（こども家庭課）

多様性が認められる状況で、どこまで調査に反映するかは中々難しい部分であるが、デリケートな質問であれば、いくらかでも飛ばしてくださいとするのは少々語弊があるが、無理に回答する必要がないと冒頭に案内したい。

○委員

私自身は飛ばしてくださいとの記載があったとしても、市がこの選択肢を示すこと自体が気になるが、他の委員の御意見もお伺いしたい。

○委員

今の若者はこのように考える傾向にあるというのを、市側が知りたい質問であって、私自身は深く印象に残らなかったが、今の若者はそういう捕え方をするのかとしっかり考えるきっかけになった。

○委員

回答は任意であるものの、本当に悩んでいる部分をピックアップ、フォローできず、回答しないから数字にも当然反映できないというのは残念である。保護者にしても、子どもにしても、一人一人に回答するメリットはあまりない中で、回答したくない人は回答しないでという形で調査を実施していいのかなという思いがあります。

○委員

市としては、本音の部分をやっぱり聞きたいという面もあるが、回答される方もそれぞれ事情があるので、選択肢に結構自分が当てはまっていると思うと、なかなか回答しづらいのではないかな。

○委員

例えば、「結婚についてどう思いますか」ではなく、「もしパートナーと一緒にあった時に、座間市に住むことは選択肢になりますか」と質問した方が市としても、人口増減を考えるうえで意味があると思うが、結婚すべき、しないべきの選択肢で、個人の倫理観・価値観にまで踏み込む必要あるのか。

○事務局（こども家庭課）

質問によっては、すごく思う、まあ思うなどの選択肢がある中で、イエスまたはノーの二択は、義務のような強い選択肢でないかとの御指摘と受け止めている。

先のしきい値と重複するが、「現在座間市にお住まいの方の意思として、パートナーと一緒にいることをどう考えですか」の次に質問するのが、「パートナーと一緒にあったときに、座間市で住みたいですか」という質問であり、いきなりは本来の質問主旨から少々離れている印象がある。

誤解を招かないような表現振りという指摘を踏まえ、もう少し選択肢に幅を持たせるなど検討したい。

○委員

クロス集計を考えているか。

○事務局（株式会社ぎょうせい）

全ての設問ではないが、例えば、この年齢層はこの質問にどう回答しているというような、別の設問と別の設問を掛け合わせたクロス集計を必要に応じて実施する予定である。

また、小学校5年生本人向け調査と、その保護者向け調査については、リンクする形で集計を行う。よって、小学校5年生保護者の家庭状況別に、小学校5年生本人がどう行動しているか、意識を持っているか集計する。

○委員

単なるニーズだけではなく、クロス集計を通してもう少し突っ込んだ形で、全体像が見えるような集計になろうかと思う。今の結婚に関する質問も、冒頭の婚姻有無とのクロス集計でまた違った見え方となるかもしれない。

○委員

調査をいつ集計し、その集計結果はいつ頃の子ども・子育て会議で示されるのか。

○事務局（こども家庭課）

委員改選が今年の7月31日にあるので、それまでにある程度の方向性をまとめてお示ししたいと考えており、集計もそこを目標としている。

○委員

調査結果は市のホームページに掲載されるのか。やはり調査を受けた方は気になるはず。

○事務局（こども家庭課）

前回の調査結果については、具体的な考察を含めて掲載している。今回については、詳細をまだ決めていないが、一定程度の結果を公表するつもりである。

○委員

7月には集計結果を出したいという話だったが、一方で学校は一定期間を設けないと調査の回答率が下がってしまうと心配している。調査期間はどれくらいを目処に考えているか。

○事務局（こども家庭課）

5月中旬に準備を行い、一般的なアンケート回収期間の例にならい、二週間ほどの回答期間を設けて実施予定である。

○委員

調査期間について、予め小学校に連絡があれば、学校側はタブレットの自宅へ持ち帰り計画や、回答率向上に向けた準備ができるので、早めに教えていただけると協力できる。

○事務局（こども家庭課）

対応したい。

3 その他

○会長

その他として、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（こども家庭課）

委員より、議事外で三点ほど事前質問をいただいたので、この場を借りて回答したい。

まず、保育士の処遇管理改善給付金について、ここ数年あった今年廃止された経緯、特にどこでどういう形で判断したのか、質問いただいた。

こちらについては、誰がどこでどう判断をしたというよりも、市の全事業に共通するが、事業の徹底的な全体の調整の結果と、担当より回答があったので、お伝えしたい。

次に、夏季の遊び場について質問いただいた。

前々回の会議において、公園が暑いので水遊びできる場所を希望という御意見をいただき、事務局より公共施設の再整備に関する検討会で、子ども・子育ての視点で意見をお伝えすると回答した。

こちらについては、現在に至るまで、再整備計画の会議が行われておらず、今後開催された際にはお話をさせていただく予定ということでご理解頂きたい。

最後に、前回までの議事録について質問いただいた。

議事録はホームページ上に公開しているが、前回、前々々回が掲載されているものの、前々回のものが掲載されていなかったことが判明したので、整えてホームページに掲載させていただく予定である。

○委員

子ども・子育て会議の委員としての意見が、どれほど反映されるのかっていうところが分からない。処遇改善も調整の結果というのは理解するが、委員としての発言がなかったことにされてしまったという印象も一方で受けた。

○事務局（こども家庭課）

保育士の処遇改善は、保育所関係部署が担当しており、まさに前々回の会議も出席しているので、意見は確実に耳に入っている。ただし、その意見を踏まえたうえで、全体的な調整という報告しか出来ないのは、大変心苦しいがご理解頂きたい。

○会長

そのほかに意見、質問はあるか。

なければ、本日予定していた議事は終了とする。

4 閉会

次回会議については、日が決まり連絡。